

# 法と教育学会

～法学と法教育～

## 会員総会・第3回学術大会 ご案内

2012年9月2日(日) 分科会・会員総会・シンポジウム・懇親レセプション

**会場：東京大学（東京都文京区本郷7丁目3-1）**

■東京メトロ丸ノ内線/本郷三丁目駅 徒歩8分 ■都営地下鉄大江戸線/本郷三丁目駅 徒歩6分  
■東京メトロ千代田線/湯島駅または根津駅 徒歩8分 ■東京メトロ南北線/東大前駅 徒歩1分

### 《プログラム》

- |             |  |
|-------------|--|
| 09:00～      | 受付   |
| 09:30～12:00 | 分科会（法学政治学系総合教育棟〔法科大学院棟〕）   |
| 12:00～13:20 | 昼休憩（昼食は各自ご用意ください）・理事会  |
| 13:20～13:40 | 会員総会（法文1号館 25番教室）  |
|             | — 休憩(10分間) —   |
| 13:50～14:50 | 基調講演（法文1号館 25番教室）<br>● 那須弘平（弁護士、元最高裁判所判事）  |
|             | — 休憩(10分間) —   |
| 15:00～17:45 | パネルディスカッション（法文1号館 25番教室）<br>「法学と法教育」<br><パネリスト><br>● 森際康友（名古屋大学大学院法学研究科教授）<br>● 戸松秀典（学習院大学名誉教授）<br>● 河上正二（東京大学大学院法学政治学研究科教授）<br>● 山本和彦（一橋大学大学院法学研究科教授）<br><コメンテーター><br>● 吉田俊弘（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭）<br><司会><br>● 山下純司（学習院大学法科大学院教授）<br>● 鈴木啓文（弁護士） |
| 18:15～      | 懇親レセプション   |

### 《参加費等》 当日お支払いください

大会参加費・・・・・・・・	会員：無料、 会員外：1,000円
懇親レセプション参加費・・	会員、会員外とも：5,000円

問い合わせ先

公益社団法人商事法務研究会内 法と教育学会事務局 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-9-10, 2階 E-mail:gakkai@houkyouiku.jp URL:http://gakkai.houkyouiku.jp

# 分科会 発表要旨

各分科会とも、最後に質疑応答の時間を40分設けています。

## 第1分科会（201教室） 【司会：村松 剛（横浜弁護士会）】

### 発表①：法教育と裁判員制度（模擬裁判）—中学校社会科（公民的分野）で、できること、できないこと

〔発表者〕中平一義（厚木市立東名中学校・東京学芸大学連合大学院）、村松 謙（横浜弁護士会）

今年度より新学習指導要領が実施され、法教育が広く行われている。司法分野では、教科書中に模擬裁判事例がある。しかし、法教育の目的と照らし合わせたときに、それだけでできることと、できないことがある。その点を整理して法教育の目的と教材を考察する。

### 発表②：法教育における生徒の学習活動の評価法について—高等学校における模擬裁判を例として—

〔発表者〕小杉一也（神奈川県立深沢高等学校）

実践行動を伴う学習活動を「イベント」に終わらせないために、法教育を教科指導に含めて実施する際に生徒の実践的な学習活動の評価法としてパフォーマンス評価の手法を試行導入した例を紹介する。

### 発表③：国語科から見た法教育

〔発表者〕札埜和男（京都教育大学附属高等学校）

現在国語科学習指導要領に法教育の文言はないが、「法はことば」でもある。国語科における法教育を「法言語教育」として捉え、実践を重ねるとともに理論構築を図ってきた。国語科から見た法教育について分析、報告する。

### 発表④：模擬裁判実施による生徒の変化—PART II—

〔発表者〕藤井 剛（千葉県立千葉高等学校）

「模擬裁判を経験することによって、それまで『裁判員になってもよい』と考えていたが、『なりたくない』と考えるようになった」生徒が、本校では3%存在している。裁判員への参加を推進する立場から、最高裁判所のアンケートとともに、その理由を分析したい。

### 発表⑤：役割体験学習論による韓国「ソロモンローパーク」の考察—体験型法教育施設の意義—

〔発表者〕井門正美（秋田大学教育文化学部）、久保山カ也（青山学院大学）

知識と行為の統一的学习を目指す役割体験学習論から、大韓民国の体験型法教育施設である「ソロモンローパーク」（2009年開館、大田）を考察し、その教育的意義を明らかにする。

## 第2分科会（203教室） 【司会：磯山恭子（静岡大学教育学部）】

### 発表①：「生命」—チリ落盤事故に学ぶ—

〔発表者〕井口哲治（熊本市立黒髪小学校）

チリの落盤事故で、33人全員が救出されることとなった要因の一つである食料分配の方法を法教育の視点から捉えた授業実践である。その際、「生命とルール」、「意思決定過程」を中心に「公正」とはどんなことかを考えさせた。

### 発表②：小学校における法教育出前授業実施報告

〔発表者〕山賀良彦（東京都行政書士会）

平成21年度から平成23年度まで、「きまりがあるのは何のため？～きまりの意味を考えてみよう！～」のタイトルで、小学4年生から6年生まで法教育を実施致しました。今回、その感想、気づいた点等をご報告したいと思います。

### 発表③：小学生の「法やきまり」に対する認識の研究

—社会科3年「学校のまわりのようす」の実践を通して—

〔発表者〕三浦昌宏（千葉大学教育学部附属小学校）

まちの中を実際に歩いて視覚的に調査を進めた子ども達。しかし、その調査だけでは理解出来なかった「駅前に広がる視覚障害者誘導用ブロックの設置」における「法やきまり」に対して子ども達はどうか考えたのか検証していく。

### 発表④：法教育の基盤となる対立への考え方を学習するための体験プログラムの開発

〔発表者〕田中圭子、山本このみ（NPO法人日本メディエーションセンター）

法教育の前提である対立の発生、そして対立への自らの行動を体験的に明らかにすることにより、子どもたちが社会との関わりの中で育む事ができる体験プログラムを通して考えられる注意点、今後の課題を法教育を基点に考察する。（日弁連法務研究財団助成研究）

### 発表⑤：初歩的な理解をめざす初等法関連教育の授業構成—『法、権利、そして責任』を手がかりとして—

〔発表者〕二階堂年恵（広島文化学園大学学芸学部）

本発表では、民主主義社会における重要な概念である法、権利、責任に関する子どもたちの導入的な理解を可能にするための方略について、アメリカの初等法関連教育の教材から検討する。

### 第3分科会（204教室）【司会：橋本康弘（福井大学教育地域科学部）】

#### 発表①：芸術大学における法教育のあり方

〔発表者〕高崎理子（沖縄県立芸術大学）

芸術大学の学生の多くは芸術家を志しているため、教師は法教育の意義について説明するだけでなく、彼らの創作活動の源泉となるよう工夫する必要がある。芸術大学における法教育の留意点と今後の課題について発表する。

#### 発表②：リベラルアーツ教育に埋め込まれる法学教育

〔発表者〕北村弥生（共立女子大学文芸学部）

情報処理の授業における写真転載や、文学の授業における懲罰や互酬のエシックスなど、大学の教養科目の授業には担当教員すら意識しない法学教育の学習契機が顕われることがある。こうした「現場」を経験的データとして分析するエスノグラフィーを試論する。

#### 発表③：法教育の担い手に関する実証分析—「司法書士のマインドとスキル全国調査」から—

〔発表者〕高山完圭（日本司法書士会連合会）、久保山力也（青山学院大学）

法教育の担い手である司法書士が、どのような意識（マインド）を持ち、いかなる技能（スキル）を有して法教育活動をおこなっているかを、日本司法書士会連合会が2010年10月に実施した全国会員調査に基づいて検証を行う。

#### 発表④：法的な見方・考え方を身につける授業の実証研究

〔発表者〕古家正暢（東京学芸大学附属国際中等教育学校）、

中井真理、本間水月、益山舞衣子（東京学芸大学大学院）藤野悠里、横田雄介（東京学芸大学）

ルールづくりの難しさ（震災瓦礫の処理）や法の妥当性（過失による損害賠償・マイノリティーの人権保障）を通して、法的な見方・考え方を身につけさせようとした教職を志す大学院生と大学生による「法教育」の授業実践を発表。

#### 発表⑤：臨床法学教育としての「法教育」授業の実践

〔発表者〕今井秀智（弁護士法人東京開智法律事務所 一般社団法人リーガルパーク）

法科大学院生から法教育を実施することの社会的意義とその制度化の可能性を探る（昨年度の國學院大學法科大学院生による公立中学校での法教育授業実施経験を踏まえて）。

### 第4分科会（301教室）【司会：渡部竜也（東京学芸大学教育学部）】

#### 発表①：新聞記事を活用した労働法教育の実践—高等学校「政治・経済」における授業実践から—

〔発表者〕太田正行（慶應義塾大学教職課程センター〔非常勤〕）

高校公民科「政治・経済」は小学校から高等学校までの社会科（公民）のまとめであり、将来の職業生活においても重要な意味を持つ。条文中心の暗記学習でなく、現実の労働者の生活に根差した学習をめざし、新聞記事を活用した授業実践を報告する。

#### 発表②：卒業式における国歌の起立斉唱強制を法的に考えるための教育内容開発

—思想・良心の自由と価値教育の視点を手がかりとして—

〔発表者〕松井克行（大阪府立旭高等学校／佛教大学〔非常勤〕）

1999年の「国旗国歌法」制定時、強制はしないとの国会答弁とは裏腹に、現在、東京や大阪の公立学校を中心に、国歌の起立斉唱の義務化の動きが急である。この問題を、高校公民科の授業で取り上げる際の教育内容を検討したい。

#### 発表③：中学校公民的分野における制度批判学習の開発—「死刑制度を考える」の場合—

〔発表者〕渡部竜也（東京学芸大学）、井手口泰典、寒河江真央（東京学芸大学〔学部生〕）

死刑制度の授業、多くは感情の対立論として処理してはいないか。本稿では、制度批判学習の理論（池野ほか）を用いて、死刑をひとつの社会体制・思想を選択する問題と捉える授業を示しその改革に乗り出したい。

#### 発表④：高校生が法を通じて現代社会を主体的に考える授業のあり方

—「法を使って社会に参加しよう」の実践を通じて—

〔発表者〕渥美利文（東京都立小岩高等学校）

発表者は2010年度の本学会で、東京都高等学校法教育研究会の研究成果を踏まえた、高等学校の法教育カリキュラムの全体構想を発表した。今回はその中から、高校生が実際に法律案を作成することを通じて、現代社会を主体的に考える実践を報告する。

#### 発表⑤：知的財産権学習における教科連携とその実践—情報科と公民科の相互連携—

〔発表者〕加納隆徳、森棟隆一（東京学芸大学附属高等学校）

法を活用し創造的な活動を行っている情報科と知的財産権を題材にして探求活動を行う公民科とで協同授業を行い、評価をした。充実した法教育を実践するための教科連携のあり方について考察する。

**第5分科会（302教室） 【司会：上園悦史（東京学芸大学附属竹早中学校）】**

**発表①：法感覚、人権感覚を育む授業づくり、教材づくりに関する実証的研究**

—高等学校の特別活動における基本的人権に関する授業実践を通して—

〔発表者〕佐保忠智（南九州短期大学）

高等学校のホームルーム活動で基本的人権に関する授業を実践した。授業づくりや教材づくりでは、法感覚、人権感覚を育むという観点から、自己の考えを述べる、他者の意見を大切に、相手の立場に立った考察をするなどの視点を重視した。

**発表②：高校生の「法」意識を探る—サークル活動を通じたモラルやルール、そして「法」意識へのアプローチ**

〔発表者〕梶ヶ谷穰（神奈川県立海老名高等学校）

今日の高校生が、日常生活のなかでモラルやマナー、そして「法」をはじめとするルールについてどのように意識し考えているのかを、サークルの生徒とともに作成した意識調査の結果や、「現代社会」の授業で実施した課題などの記述内容から考察し報告する。

**発表③：神奈川県立高等学校における幸福、正義、公正に関する授業の紹介**

〔発表者〕冬木健太郎（横浜弁護士会） 渡辺研悟（神奈川県立柏陽高等学校）

学習指導要領に触れられている「幸福、正義、公正」について、平成23年度に神奈川県立柏陽高校にて研究授業を行った。その後、かかる研究授業について各所からご意見、ご批判等を頂いたので、本発表では、それらの報告をしたい。

**発表④：“生命倫理と法”教育の可能性を探る**

—高校での実践「生殖医療の現状とこれからの社会」の分析を通して—

〔発表者〕三浦朋子（千葉大学教育学部）

本発表では、生殖医療の課題を法的ルールの必要性という観点から取り上げ、人間の身体の扱い方をめぐる倫理的・社会的・法的課題として問題の全体像を把握し、これからの社会を考える授業のあり方について検討する。

《分科会タイムテーブル》

	9:30	9:50	10:10	10:30	10:50	11:10	
	発表①	発表②	発表③	発表④	発表⑤		
第1 201	中平一義 (厚木市立東名中学校・東京学芸大学連合大学院) 他	小杉一也 (神奈川県立深沢高等学校)	札埜和男 (京都教育大学附属高等学校)	藤井 剛 (千葉県立千葉高等学校)	井門正美 (秋田大学教育文化学部) 他		質疑 応答 40分
第2 203	井口哲治 (熊本市立黒髪小学校)	山賀良彦 (東京都行政書士会)	三浦昌宏 (千葉大学教育学部附属小学校)	田中圭子 (NPO 法人日本メディエーションセンター) 他	二階堂年恵 (広島文化学園大学学芸学部)	休憩 5分	
第3 204	高崎理子 (沖縄県立芸術大学)	北村弥生 (共立女子大学文芸学部)	高山完圭 (日本司法書士会連合会) 他	古家正暢 (東京学芸大学附属国際中等教育学校) 他	今井秀智 (東京開智法律事務所／リーガルパーク)		
第4 301	太田正行 (慶應義塾大学教職課程センター)	松井克行 (大阪府立旭高等学校／佛教大学)	渡部竜也 (東京学芸大学) 他	渥美利文 (東京都立小岩高等学校)	加納隆徳 (東京学芸大学附属高等学校) 他		
第5 302	佐保忠智 (南九州短期大学)	梶ヶ谷穰 (神奈川県立海老名高等学校)	冬木健太郎 (横浜弁護士会) 他	三浦朋子 (千葉大学教育学部)	休憩		

《東京大学構内図》

★受付場所

----- 経路

午前：法学政治学系総合教育棟〔法科大学院棟〕

正門を入り、すぐ右手のガラス張りの建物

午後：法文1号館（25番教室前）

正門からまっすぐ進み、安田講堂の手前左側の建物

懇親レセプション：医学部教育研究棟 13階

総合図書館と三四郎池の間を進み、

突き当たりを左へ。1本目の道を右に入って右手の建物（鉄門記念講堂の入っている建物）

